



# 平成30年7月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年3月12日

上場会社名 株式会社シーズ・ホールディングス  
 コード番号 4924 URL <http://ci-z-holdings.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 智美

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 小杉 裕之

TEL 03-6419-2500

四半期報告書提出予定日 平成30年3月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年7月期第2四半期の連結業績(平成29年8月1日～平成30年1月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年7月期第2四半期	23,875	12.7	4,872	8.3	4,914	5.6	3,249	7.5
29年7月期第2四半期	21,175	20.7	4,500	47.9	4,654	51.7	3,514	67.0

(注) 包括利益 30年7月期第2四半期 3,361百万円 (10.7%) 29年7月期第2四半期 3,766百万円 (80.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年7月期第2四半期	66.82	
29年7月期第2四半期	72.26	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年7月期第2四半期	51,297	32,939	62.3	656.61
29年7月期	39,536	32,009	78.6	639.09

(参考) 自己資本 30年7月期第2四半期 31,934百万円 29年7月期 31,082百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年7月期		0.00		50.00	50.00
30年7月期		0.00			
30年7月期(予想)				57.00	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年7月期の連結業績予想(平成29年8月1日～平成30年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,600	22.6	10,400	21.4	10,400	18.6	7,060	17.9	145.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年7月期2Q	48,635,255 株	29年7月期	48,635,255 株
----------	--------------	--------	--------------

期末自己株式数

30年7月期2Q	115 株	29年7月期	70 株
----------	-------	--------	------

期中平均株式数(四半期累計)

30年7月期2Q	48,635,153 株	29年7月期2Q	48,635,235 株
----------	--------------	----------	--------------

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されております。ただし、海外経済の不確実性或金融資本市場の変更の影響に留意する必要があります。

このような環境の中、当社はエステ・サロン事業の強化及び当社グループにおける若年層顧客獲得のために、平成29年11月30日に株式会社セドナエンタープライズの株式を取得し、子会社化いたしました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績については、当第2四半期連結会計期間から新たに株式会社セドナエンタープライズが連結対象となり、前年同期と比較して連結売上高と各段階利益が増加したことに加え、外部ECサイトを通じた通信販売の売上高伸長、スペシャルケア商品の販売が好調な対面型店舗販売の売上高増加、ラボラボブランドの売上高が引き続き国内外で拡大しております。なお、前第2四半期連結累計期間においては、特別利益として事業譲渡益389百万円が計上されております。

以上により、売上高は23,875百万円(前期比12.7%増)、営業利益は4,872百万円(前期比8.3%増)、経常利益は4,914百万円(前期比5.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,249百万円(前期比7.5%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### <ドクターシーラボ事業>

ドクターシーラボ事業をブランド別に見ますと、広告販促費を前年同期比で増加させたことも有り、前年同期比で売上高が増加しました。第1の柱であるアクアコラーゲンゲルシリーズを中心とした商品のセット販売を継続的に推し進めたこととともに、第2の柱であるVC100シリーズについてもさらなる拡販を行うために、TVCMやWeb広告などの広告販促活動を積極的に進めてまいりました。また、「スーパーホワイト377」、スーパー100シリーズの「EGF」などのスペシャルケア商品の売上高も好調に推移しました。

ラボラボブランドは、インバウンド需要の恩恵を最も受けた「スーパー毛穴ローション」が、化粧品全体の売上高増加に大きく貢献いたしました。さらに、「スーパー毛穴ゲル」「スーパー毛穴ウォッシング」などの毛穴ケア関連商品の売上高も増加し、毛穴ケアブランドとして認知が高まっております。

ジェノマーブランドは、高価格帯のブランドとして定期的に既存商品のリニューアル及び新商品の発売を行っており、アンチエイジングブランドとしての認知度の強化・定着化を図っております。

健康食品については、「美禅食ゼリー」を中心に、インフォマーシャルなどの広告宣伝費を積極的に投下いたしました。また、2017年11月にはナノカプセル技術を使用したビタミンCサプリメント「メガリポVC100」を発売いたしました。2018年1月に発売した医薬品のビタミンタブレット「VCピュア2000」と共に、「ビタミンCと言えばドクターシーラボ」とお客様にイメージして頂けるように訴求を強化してまいります。

以上により、ドクターシーラボ事業の売上高は、21,326百万円(前年同期比7.3%増)、営業利益は4,658百万円(前年同期比10.2%増)となりました。

次にドクターシーラボ事業を販路別に見ますと、通信販売においてはAmazonのドクターシーラボ公式通販サイトでの売上が好調に推移いたしました。また、新たな顧客層の獲得及びライトユーザーの購入定着化を図るべく、DM強化や会報誌の種類を新規に増やすなどの施策を行ってまいりました。しかしながら、前連結会計年度に離脱したお客様の影響もあり、当社が目標としている購入顧客数の回復には至りませんでした。以上により、通信販売の売上高は11,859百万円となり、前年同期と比較して4.8%増加にとどまりました。

卸売販売においては、中華圏のお客様に人気がある「スーパー毛穴ローション」のインバウンド効果が、期初予想を大幅に上回る売上高となりました。また、相対的に顧客割合が少ない20代後半から30代前半の顧客層を拡大させるべく、幅広い世代から人気の高いVC100シリーズの販促活動を前連結会計年度に引き続いて推し進めてまいりました。以上により、卸売販売の売上高は5,754百万円となり、前年同期と比較して34.9%増加いたしました。

対面型店舗販売では、当第2四半期連結累計期間において2店舗の閉店をした一方で、3店舗の新規開店を行いました。新規顧客及び既存顧客獲得のために、継続的なお手入れ会を実施してきたことに加え、来店客数及び来店回数増加を目的として、来店客へのプレゼント贈呈や、商品の試用・カウンセリングをご提供する機会を多く設けるなどの施策を積極的に行ってまいりました。さらに海外でまだ販売されていない商品の売上が急増するなど、外国人観光客のインバウンド需要拡大により、売上高は好調に推移しました。以上により、対面型店舗販売の売上高は、2,204百万円となり、前年同期と比較して9.7%増加いたしました。

海外においては、米国のジョンソン・エンド・ジョンソンのグループ企業主導のもと、主にアジア圏の国を対象とした広告販促活動を積極的に実施し、特に中国・韓国は海外売上全体で占める割合が高い国となっております。海外市場での認知度も飛躍的に増加しており、国内におけるインバウンド需要にも好影響を与えるなど、顕著な相乗効果が見え始めております。前第3四半期連結会計期間以降は、ジョンソン・エンド・ジョンソンのグループ企業の販売額に対する一定のロイヤリティ収入が収益の柱となっております。なお、会計上の観点からでは、売上高は従前よりも減少する一方で、現地における販促促進費を始めとする費用負担が発生しなくなるため収益性が大幅に向上することとなります。以上により、海外の売上高は1,507百万円となり、前年同期と比較して34.1%減少いたしました。

#### <エステ・サロン事業>

エステ・サロン事業においては、当第2四半期連結会計期間において株式会社セドナエンタープライズの株式を取得し子会社化いたしました。子会社化することで、管理面ではエステ・サロン事業の基盤の強化、収益面ではドクターシーラボ事業の化粧品開発のノウハウを導入することによる若年層向け化粧品ブランド開発及び販売に伴う売上高の拡大などのシナジー効果を見込んでおります。また、株式会社シーズ・ラボは当第2四半期連結会計期間において、町田店と銀座5丁目店の2店舗を新規開店するなど、店舗拡大を順次進めているところでございます。さらに2018年1月には、ドクターシーラボと共同開発したニキビケア商品の販売を開始いたしました。人気施術メニューであるニキビケアメニューと合わせ、シーズ・ラボの物品販売の柱として成長させてまいります。

以上により、エステ・サロン事業の売上高は、2,548百万円（前期比96.8%増）、営業利益は199百万円（前年同期比27.2%減）となりました。

#### (2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、平成29年12月11日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,508,565	24,087,871
受取手形及び売掛金	4,998,887	5,258,939
有価証券	138,968	49,254
商品及び製品	2,986,039	2,766,715
原材料及び貯蔵品	1,337,708	1,376,264
その他	1,483,811	2,679,732
貸倒引当金	△25,118	△272,420
流動資産合計	32,428,861	35,946,356
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,187,383	1,748,720
減価償却累計額	△466,563	△504,034
建物(純額)	720,820	1,244,685
工具、器具及び備品	1,499,518	2,028,642
減価償却累計額	△1,171,895	△1,244,585
工具、器具及び備品(純額)	327,623	784,057
土地	1,315,861	1,315,861
その他	106,877	68,405
減価償却累計額	△45,495	△22,662
その他(純額)	61,382	45,743
有形固定資産合計	2,425,687	3,390,348
無形固定資産		
ソフトウェア	1,890,601	1,899,153
ソフトウェア仮勘定	43,579	84,601
のれん	1,889,521	8,560,580
その他	17,265	15,310
無形固定資産合計	3,840,967	10,559,645
投資その他の資産		
その他	861,088	1,512,623
貸倒引当金	△20,534	△111,102
投資その他の資産合計	840,553	1,401,521
固定資産合計	7,107,208	15,351,515
資産合計	39,536,070	51,297,872

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年1月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,057,283	915,817
短期借入金	—	800,000
未払金	2,661,198	2,049,081
前受金	1,096,414	6,984,927
前受収益	821,666	651,666
未払法人税等	698,196	2,080,945
賞与引当金	175,895	135,736
ポイント引当金	231,917	261,557
その他	344,255	824,737
流動負債合計	7,086,828	14,704,470
固定負債		
長期借入金	—	3,068,000
退職給付に係る負債	261,145	284,106
その他	178,460	301,995
固定負債合計	439,605	3,654,101
負債合計	7,526,433	18,358,572
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,959,358	2,959,358
資本剰余金	3,436,758	3,436,758
利益剰余金	24,638,870	25,456,675
自己株式	△230	△423
株主資本合計	31,034,756	31,852,368
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,720	22,399
為替換算調整勘定	31,690	59,413
その他の包括利益累計額合計	47,411	81,812
非支配株主持分	927,468	1,005,118
純資産合計	32,009,636	32,939,299
負債純資産合計	39,536,070	51,297,872

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)
売上高	21,175,537	23,875,175
売上原価	4,387,078	5,525,094
売上総利益	16,788,459	18,350,081
販売費及び一般管理費	12,288,250	13,477,504
営業利益	4,500,209	4,872,577
営業外収益		
受取利息	587	431
受取配当金	—	125
為替差益	112,699	—
受取手数料	15,875	15,482
商品破損受取賠償金	5,502	5,481
その他	19,802	30,112
営業外収益合計	154,466	51,634
営業外費用		
支払利息	247	401
為替差損	—	8,258
その他	304	1,107
営業外費用合計	552	9,767
経常利益	4,654,124	4,914,443
特別利益		
固定資産売却益	3,963	—
投資有価証券売却益	—	15,912
事業譲渡益	389,647	—
特別利益合計	393,610	15,912
特別損失		
減損損失	10,910	1,288
固定資産除却損	85	8,042
固定資産売却損	33	—
特別損失合計	11,029	9,331
税金等調整前四半期純利益	5,036,705	4,921,024
法人税等	1,439,698	1,596,674
四半期純利益	3,597,006	3,324,350
非支配株主に帰属する四半期純利益	82,721	74,787
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,514,285	3,249,563



(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)
四半期純利益	3,597,006	3,324,350
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△326	9,541
為替換算調整勘定	169,443	27,722
その他の包括利益合計	169,116	37,264
四半期包括利益	3,766,123	3,361,615
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,683,500	3,283,965
非支配株主に係る四半期包括利益	82,623	77,649

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,036,705	4,921,024
減価償却費	178,754	382,882
長期前払費用償却額	950	483
貸倒引当金の増減額(△は減少)	9,201	1,668
賞与引当金の増減額(△は減少)	△31,147	△40,159
ポイント引当金の増減額(△は減少)	3,912	29,640
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	14,555	22,960
受取利息及び受取配当金	△587	△557
のれん償却額	145,347	260,880
支払利息	247	401
減損損失	10,910	1,288
固定資産除却損	85	8,042
固定資産売却損益(△は益)	△3,929	—
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△15,912
事業譲渡損益(△は益)	△389,647	—
売上債権の増減額(△は増加)	1,399,737	91,081
たな卸資産の増減額(△は増加)	49,548	247,111
仕入債務の増減額(△は減少)	278,061	△143,302
前受金の増減額(△は減少)	△19,640	△553,427
前受収益の増減額(△は減少)	△170,000	△170,000
未払金の増減額(△は減少)	△38,565	△77,430
未払消費税等の増減額(△は減少)	△414,786	174,911
預り金の増減額(△は減少)	△28,883	△1,901
その他	359,454	63,223
小計	6,390,285	5,202,911
利息及び配当金の受取額	587	431
利息の支払額	△247	△401
法人税等の支払額	△2,714,740	△1,025,618
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,675,884	4,177,324
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△121,331	△212,895
無形固定資産の取得による支出	△317,296	△1,148,118
投資有価証券の売却による収入	—	57,687
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,861,502
その他	△5,361	91,916
投資活動によるキャッシュ・フロー	△443,990	△3,072,912
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△2,138,831	△2,429,428
長期借入れによる収入	—	4,000,000
長期借入金の返済による支出	—	△132,000
自己株式の取得による支出	△230	△192
その他	△9,028	△4,052
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,148,090	1,434,325
現金及び現金同等物に係る換算差額	187,062	40,568
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,270,864	2,579,306
現金及び現金同等物の期首残高	18,829,693	21,508,565
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,100,558	24,087,871

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第2四半期連結会計期間において、株式取得により株式会社セドナエンタープライズを連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	ドクターシー ラボ事業	エステ・サロ ン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	19,880,369	1,295,168	21,175,537	—	21,175,537
セグメント間の内部 売上高又は振替高	45,556	—	45,556	△45,556	—
計	19,925,925	1,295,168	21,221,094	△45,556	21,175,537
セグメント利益	4,228,307	273,854	4,502,162	△1,952	4,500,209

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,952千円は、未実現利益及びセグメント間取引の消去等を表しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成30年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	ドクターシー ラボ事業	エステ・サロ ン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	21,326,453	2,548,721	23,875,175	—	23,875,175
セグメント間の内部 売上高又は振替高	85,616	60,606	146,222	△146,222	—
計	21,412,070	2,609,327	24,021,398	△146,222	23,875,175
セグメント利益	4,658,275	199,369	4,857,644	14,932	4,872,577

(注) 1. セグメント利益の調整額14,932千円は、未実現利益及びセグメント間取引の消去等を表しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、株式会社セドナエンタープライズの株式を取得し、新たな連結の範囲に含めております。

これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第2四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、エステ・サロン事業において10,530,824千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

エステ・サロン事業において、株式会社セドナエンタープライズの株式の取得をいたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては6,931,939千円であります。

なお、のれんの金額につきましては、取得原価の配分を完了していないため、暫定的な会計処理によって算定された金額であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。